

音楽科学習指導案（6年）

平成26年11月7日（金曜日）第3校時 音楽室 指導者

1 題材名 「6年生の活動をテーマにしたふしづくりをしよう」

教材 語感を生かしたふしづくり

2 考察

(1) 題材観

本題材は、以下の学習指導要領第5学年及び第6学年の内容によるものである。

A 表現（2）

イ 曲想にふさわしい表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

A 表現（3）

イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

本題材では、音楽づくりの学習において、児童に身近な題材をテーマとして、児童が発想した言葉の語感を生かしたふしづくりを行う。ふしづくりを行う際に、〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」を生かした「常時活動」を直接的な手立てとして取り入れたり、〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」を生かした「常時活動」の経験をふまえて音楽を構成したりすることで、思いや意図を生かした音楽が構成できるようになることをねらいとしている。〔共通事項〕に示された内容を手がかりにし、児童が思いや意図をもって音楽を構成することの重要性は、「はばたく群馬の指導プラン」で示されており、表現に生かすための具体的な取組を行っていくことが求められている。

今回、思いや意図を生かした音楽を構成できるようにするために、「音楽を特徴付けている要素」だけでなく、「音楽の仕組み」を取り入れた「常時活動」を、音楽づくりの直接的な手立てとして取り入れた実践を行いたい。授業導入としての「常時活動」に「音楽の仕組み」を意識した活動を取り入れることで、音楽づくりの具体的な方法を無理のない形で自然に身に付けることができるようにする。そして、音楽を構成するどの部分で何を取り入れるとどんな音楽的な効果が得られるかを、題材の学習以外のところでも意識できる音楽経験を積み重ねられるようにしたいと考えた。また、つくった音楽のよさや面白さを「記録する・伝える」ための「常時活動」として、リズムカードを活用したり音符や記号を読んだり書いたりする活動を取り入れていく。これにより、音楽に構成した自分の思いや意図を、演奏としてだけでなく再現できる楽譜としての形として残すことができ、演奏し合ったり伝え合ったりすることにつながると考えた。

このように、「常時活動」を手がかりとして身に付けた〔共通事項〕に示された内容を、どの段階でどのように取り入れるか、また、構成した音楽をどのような形で記録したり伝えたりしていくかなど、音楽づくりの一連の学習過程に見通しをもって取り組めるようにする。その中で、自らの思いや意図を音楽に構成するだけでなく、構成した音楽のよさや面白さを感じ取ったり伝え合ったりすることにつながられると考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態及び指導方針（男子15名 女子19名 計34名）

<関心・意欲・態度>

本校の児童は明るく元気で、様々な活動にまじめに取り組むことができる。常時活動にも意欲的に取り組むことができ、カードによるリズムづくりや言葉遊びに積極的である。音符カードを生かしたふしづくりでは、積極的に語感からリズムを導き出し、それを生かしたリズム演奏に発展させるために意欲的に活動に取り組むことができる。

<音楽表現の創意工夫>

常時活動で行っている即興のリズム表現や言葉遊びでは、自分たちで考えた言葉をもとにして「音

楽の仕組み」を生かしたリズム表現や言葉遊びを行うことができる。しかし、取り入れた「音楽の仕組み」が醸し出す効果やそれによる面白さと表現とのつながりに意識して活動することが苦手である。また、ふしづくりよりもリズムパターンづくりや即興表現の経験の方が多く、思いや意図をどのように表現に生かすのかを考える経験は少ない。また、表現の工夫と〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」とを関連付けたり、音楽のよさや面白さを〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」に着目して説明したりすることができない。これは、思いや意図を生かして表現するための、〔共通事項〕に示された内容と音楽表現を結び付ける具体的な音楽経験が少ないことが理由として考えられる。

＜音楽表現の技能＞

常時活動の際に実践している音符を読んだリズム打ちは、ほとんどの児童が正確に行うことができる。また、音楽づくりの活動では、簡単なリズム遊びや問いと答えによるリズム表現など、即興で演奏したりつくったりすることができる。ふしづくりでは、単語にリズムをあてはめたり音を決めて短いふしをつくったりすることはできるが、ある程度の長さやまとまりのあるふしづくりに課題が見られる。音楽を構成する場面では、つくったふしをつなげることはできるが、問いと答えや変化・反復など「音楽の仕組み」を意識して構成することができる児童は少ない。さらに、音楽を構成していくための見通しをもつことができず、どのような手順で音楽を構成するかや、できあがった音楽の全体像を想像して音楽を構成していくかについて、意識して音楽づくりに取り組むことができない。

以上のことから、本校の実態として、「はばたく群馬の指導プラン」で挙げられた「音楽の要素を手がかりに、音楽づくりや創作をすること」に関わる「見通しをもった音楽づくりができる」の課題に相当することが分かる。

3 研究とのかかわり

群馬県総合教育センターの先行研究における、表現（音楽づくり）分野の課題として、知覚・感受したことを言葉で表すことや、作品を記録するための記譜や音符と関連した指導についての改善や工夫が必要であることが示されていた。また、「常時活動」については、児童の発達に応じ、段階をふんだ指導を行うことや、〔共通事項〕との具体的な関連付けが求められるということについても挙げられていた。このようなことから、音楽づくりでは、思いや意図と〔共通事項〕を関わらせた表現活動を目指し、「常時活動」に具体的に取り入れた活動を生かして、自分が表現した音楽を言葉や図、記号・音符等を使って記録したり伝えたりすることができる音楽科指導の工夫を目指したいと考えた。

4 題材の目標

自分の発想した言葉の語感をもとにして、音符やリズムの組み合わせと「音楽の仕組み」を生かしたふしづくり活動ができる。

5 指導計画（全6時間予定）（常○：資料28ページ「音楽づくりの要素と常時活動のかかわり」参照）

評価 規 準	音楽への 関心・意欲・態度	テーマに合った言葉を想起したり、思いや意図をもってふしづくりをしたりする学習に進んで取り組もうとしている。
	音楽表現の 創意工夫	ふしの構成や組み立てなど、〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」や「音楽の仕組み」と関連付けた工夫をし、ふしづくりにおいて自分の思いや意図をもっている。
	音楽表現の技能	語感を生かしたり「音楽の仕組み」を取り入れたりするなど、基礎的な技能を身に付けて、つくり出したふしやリズムを表現したり、音を音楽に構成したりしている。

時間	過程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動 (◇評価項目と【観点】)
		活用させたい 〔共通事項〕等	思考力・表現力等 (生かす常時活動やその内容)	
第1時 第2時	課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、イントネーション、発音 ・音符やリズム、イントネーション、発音、拍、音高 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が言葉を想起しやすい日常の事柄や行事など、身近な題材を班ごとにテーマとして設定した言葉集め。(常⑤⑥) ・リズムに変えることを視野に入れた、言葉の選択や組み合わせを考えられるようにするためのリズムづくり。(常⑱) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級の出来事や行事、友達のことをテーマにした言葉を集める。 ◇テーマに合った言葉を想起し、自分たちの思いや意図を言葉で表現しようとしている。【関】 ・想起した言葉を用いて、ふしにするための2小節16拍で収まる文に整える。 ◇ワークシートやイメージマップをもとに、選んだ言葉から語感を生かしたリズムを導き出し、拍に合わせたふしに構成することができる。 【技】
第3時 第4時	課題追	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、拍、音高、フレーズ ・音符やリズム、拍、音高、フレーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・想起した言葉に合わせてリズムカードを並べたり、音の高さを表すために磁石等を使った操作活動を取り入れたりすることによる音の選択。(常⑮⑯⑳) ・話し合いを通して気付いた、音楽の仕組みを生かしたリズムの組み合わせの設定。(常⑦⑧) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のイントネーションとニュアンスから音の高さを考えたりリズムを組み合わせていく。 ◇語感と音楽の要素との関わりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしをつくるかについて自分の思いや意図をもっている。【創】 ・言葉のニュアンスと「音楽の仕組み」や音楽の要素を組み合わせる表現の工夫をしていく。 ◇音楽の仕組みや要素が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。【創】
第5時 本時	究	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、フレーズ、音高、問いと答え、変化、反復、続く感じ、終わる感じ 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の仕組みや要素を取り入れることで、自分が意図した曲の雰囲気がふしの表現に生かしているかを確認する演奏。(常⑫⑰⑳㉑㉒㉓㉔) 	<ul style="list-style-type: none"> ・つくったふしを音に出したり、組み合わせを見直したりしながら音楽の仕組みを取り入れて構成することで、自分たちのイメージに近づけていく。 ◇自分のつくったふしを、「音楽の仕組み」を取り入れることにより、つくりたい曲のイメージに合わせて構成しなおすことができる。【創】
第6時	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、拍、音高、フレーズ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの曲のよさや面白さを伝え合い、できたふしのよさを共感し合う表現活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふしを再現可能な楽譜として班ごとに完成させ、聴き合ったり演奏し合ったりすることで、よさや面白さに気付けるようにする。 ◇音楽の仕組みや要素を取り入れた演奏を、表現したり音を音楽に構成したりしている。【技】

本時の展開 (1 / 6)

- (1) **ねらい** 学級の出来事や学校行事、友達のことをテーマにした言葉を集める。
- (2) **準備** イメージマップ ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・班ごとに設定するテーマは、児童が言葉を想起しやすい日常の事柄や学校行事など、身近な題材をいくつか用意しておく。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて テーマに合わせた 言葉集めをしよう </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜予想される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会で一番頑張ったリレーで走っているときのことを歌にしたいな。 ・組み立て表現のピラミッドはつらかったけど、一番やってよかったと思ったから、これを入れたいな。 ・修学旅行のとき、みんなで歩いた鎌倉のことを歌にしたいな。 ・鎌倉の大仏はとっても大きかったし、初めて見たときびっくりしたよ。このことを歌にしたらどうだろう。 ・チャレンジスクールのキャンプファイヤーはとっても楽しかったし盛り上がったよね。歌にするならやっぱりこれしかないよ。 ・野外炊事のカレーづくりだってとってもおいしかったよ。 </div>	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・この題材を通して作成した歌を、卒業記念の作品として残すことを説明することで、自分たちの思い出や思いを作品に込められるように意識付けられるようにする。 ・話合いの方法は学級活動や話合い活動の方法に準じたやり方で行う。 ・テーマは「修学旅行」「チャレンジスクール」「運動会」「臨海学校」など、児童が経験した大きな学校行事とすることで、思い出や出来事などのイメージを発想しやすくする。 ・まず、テーマに合わせたイメージマップを作成し、それに沿って出来事を短い言葉や文として集めていく。言葉やセンテンスの中には、様子やイメージを表す擬態語・擬声語のようなものも含めていくように声かけをする。 <p>◎言葉や文を想起できない児童に対して、具体的な場面でどのようなことが起こったか、そのときどのように思ったかを具体的に質問することで、ワークシートの記述につなげられるようにしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> ◇テーマに合った言葉を想起し、自分たちの思いや意図を言葉で表現しようとしている。 (ワークシート・発表)【関・意・態】 </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・イメージマップとワークシートの内容を確認し、次時にはそれをふしにしていくことを説明する。

本時の展開 (2 / 6)

- (1) **ねらい** 想起した言葉をふしづくりに合わせた文に整える。
- (2) **準備** イメージマップ ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・自分たちで集めた言葉やイメージマップに書かれた内容をもとに、歌詞にしたい言葉を選べるようにする。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて 集めた言葉を 拍やリズムに合う言葉になおそう </div>		
3 グループで集めた言葉の中から、自分でふしにしたい言葉を選び、2小節16拍に収まる言葉にする。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを黒板に提示し、具体的な例を提示して説明することで、2小節16拍がどのくらいの長さでどのような形になるかを確認できるようにする。 ・言葉を言いながら手拍子をするように指示し、枠に収まるような言葉を選べるようにしていく。 ・枠の一マス分は八分音符一つ分の長さであることを伝え、不自然対の長さが意識できるようにする。また、ふしとしての仕上がりを意識し、小節や言葉の句切りをなるべく合わせていくように伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この枠に合わせるのって難しいな。 ・手拍子をしながら言葉を読んでいくと入れやすいみたいだよ。 ・様子を表す言葉ってどんなものがあるのかな？ ・かけ声や応援合戦の呼びかけなんか様子を表す言葉になるかもしれないね。 ・びっくりしたり驚いたりした様子も言葉にできるといいな。 ・熱いとか痛いとかも気持ちや様子を表すんじゃないかな。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ◎言葉の中に様子を表す言葉を入れられない児童には、かけ声や叫び声などの自分が発した声だけでなく、見た目の様子や動きを表す言葉、驚きや喜びなど、動きや感情も様子を表す言葉に含まれることを助言していく。 ・「ー」を使った「伸ばす言葉」を選んだ児童について、「ー」の扱いや書き方の具体的な説明を、必要に応じて全体にも行うことで、様子を表す言葉の幅を広げていけるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇イメージマップの言葉をもとにして、語感を生かしたリズムを、ふしにするための拍に合わせた文にすることができる。 (ワークシート・発表) 【技能】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・ワークシートの内容を確認し、次時には言葉にリズムや音程を付けてふしにしていくことを伝える。

本時の展開 (3 / 6)

- (1) **ねらい** 言葉のイントネーションやニュアンスから音高やリズムを考える。
- (2) **準備** ワークシート プロジェクタ 説明用ワークシート
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。 (常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・前時に想起した言葉の語感を生かしたリズムづくりと音選びを行い、自分たちのふしづくりを進めることを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>めあて 整えた言葉に リズムや音をあてはめよう</p> </div>		
<p>3 言葉のイントネーションやニュアンスから音の高さを考えたりリズムを組み合わせてたりする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この言葉はここが強くなるよ。だから音が上になるんじゃないかな。 ・手拍子をしながら言葉を読んでいくとリズムにするとときに分かりやすいね。 ・ここを伸ばすと四分音符になるからリズムを枠の中に入れられるようになるよ。 ・手拍子したリズムはいつもカードでつくっているリズムだったから、カードを選べばすぐにできたよ。 ・音符に書くのが難しいなあ。 ・カードでつくったリズムをそのまま下におろして行って、音符に書いていだけだから、そんなに難しくなかったよ。 ・自分のふしが音符に表せてよかったな。 </div>	25分	<p>◎音の高さを決めるために、イントネーションをもとにして考えられるようにするために、ペアやグループ活動を取り入れ、相談したり意見を交換したりしながら決められるような場の設定を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選んだリズムをワークシートに記述する際は、常時活動で使用した音符カードを縮小したものを使用することで、常時活動で行ってきたリズムづくりやリズム表現を具体的に取り入れて記述できるようなワークシートの工夫をする。 ・「ー」を使った「伸ばす言葉」を選んだ児童について、どの部分に用いるかによってリズムの形が変わることを説明し、リズムやふしに変化を付けられるようにする。 ・具体的な操作例で全体に紹介した方がいいものについては適宜紹介をし、児童が考える上での様々なヒントにしていけるようにしていく。 ・常時活動で経験した音符を書く活動を、ふしづくりの中に具体的に取り入れるために、ワークシートに貼り付けたミニ音符カードの音符が五線譜へ直接転記できるようにワークシートを工夫する。 ・イレギュラーなリズムが出てきた場合に備え、児童の言葉から想定されるリズムパターンを準備しておく。 ・できあがったふしを演奏する活動を取り入れ、できあがったふしを確認するだけでなく、手直ししてもよいことを伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇語感と音楽の要素との関わりが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしをつくるかについて自分の思いや意図をもっている。 (児童の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・ワークシートの内容を確認し、次時にはリズムや音程をつけたふしに音楽の仕組みを生かしていくことを伝える。

本時の展開（４／６）＜10月31日＞

- (1) **ねらい** できあがったふしに、音楽の仕組みを取り入れて構成しよう。
 (2) **準備** ワークシート（児童用・説明用）プロジェクタ 音符カード（小）鍵盤ハーモニカ
 (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・ふしの中にある「様子や気持ち・声・動き」や「ふしの中で強調したい部分」をとりあげ、「音楽の仕組み」や「音楽の要素」を取り入れてふしのよさや面白さを工夫し、自分のつくったふしをふくらませていくことを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて つくったふしに込めた思いを 伝えるための工夫をしよう。</p> </div>		
3 つくったふしに〔共通事項〕に示されている「音楽の仕組み」や「音楽の要素」を取り入れて構成する。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」や「音楽の要素」を想起できるようにするために、仕組みや要素を取り入れた常時活動を再現したり、教室に掲示した音楽の仕組みや要素について確認したりする。 ・取り入れる「音楽の仕組みや要素」は変化・反復など、個人で取り入れられるもととし、具体的に常時活動で体験したものを中心とする。 ・「変化」は音やリズムを変化させること、「反復」は取り出した部分を繰り返すこととする。また、音を伸ばしたり休符を入れたりするなど、具体的に分かる例を提示し、取り入れることでどのような効果があるかについて考えられるようにしていく。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜予想される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この言葉は様子を表す言葉だよ。だから反復を使って繰り返してみよう。どんな感じになるかな？ ・この言葉の部分の音をちょっと変えてみようかな。 ・同じ言葉を繰り返すだけだと面白くないから、ちょっと言葉を変えて早口にしてみたらどんな感じになるかな。 ・早口になったらリズムが変わったよ。音符の種類を変えないとだめだね。 ・この言葉は伸ばした方が感じが出るかもしれないよ。音符の種類を変えてみよう。休符を入れてもいいかな。 ・音符の種類を変えるだけでなく、音も変えないとだめかもしれないよ。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ◎工夫する部分は「様子・気持ち・声・動き」などとし、取り上げる部分を短くした方が変化や反復などの「音楽の仕組み」を取り入れやすくなることを、児童の様子を見ながらアドバイスしていきけるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇音楽の仕組みや要素が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにふしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。 (児童の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 できあがったふしを演奏する。		<ul style="list-style-type: none"> ・できあがったふしを演奏する際、ふしを確認するだけでなく、どのような工夫を取り入れ、どんな効果が聴き取れたかを確認することで、「工夫してよかった」「面白い表現にできた」という実感をもてるようにする。
5 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの内容を確認し、次時には音楽の仕組みや要素を取り入れたふしを組み合わせ、音楽を構成していくことを伝える。

本時の展開（5／6）＜11月7日＞

- (1) **ねらい** 自分たちの表現したいイメージに近付けるために、音楽の仕組みを取り入れて音楽を構成することができる。
- (2) **準備** 楽譜、ホワイトボード、音符カード、提示用ワークシート、プロジェクタ（教師）
記入用ワークシート 鍵盤ハーモニカ（児童）
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・前時に考えた「もとなるふし」と「工夫したふし」を確認し、「工夫したふし」に「問いと答え」を取り入れて、どのようにふしを構成していくか考えられるようにする。
<p>めあて</p> <p>音楽の仕組みを取り入れて 歌のイメージを工夫しよう。</p>		
<p>3 イメージをふくらませるために、「音楽の仕組み」を取り入れてふしを構成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜予想される児童の反応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反復や変化は前の時間につくったふしに取り入れたから、今回は問いと答えが使えるね。 ・同じ言葉を「反復」してあるから、「呼びかけ」を使って、面白くしてみようかな？ ・強調したい部分はここだから、みんなで演奏できるように楽譜を書いておこう。 ・つくった人が一番分かっているはずだから、ここはどうやって吹くか教えてよ。 </div>	25分	<p>・イメージとは、前時に表現の工夫をした言葉から想像できるものとする。前時につくったふしに、「問いと答え（呼びかけ・掛け合い）」を組み合わせることで、自分が考えたイメージと雰囲気や様子が音楽的な効果（強調や表現の面白さ）をさらにふくらませられるようにする。</p> <p>◎ワークシートの記入方法を伝える際、どのような方法で作業を進めていくか確認しやすくするために、書き方を示したワークシートを準備し、プロジェクタを用いて示していけるようにする。</p> <p>・「もとなるふし」はそのままの形で使うことを伝え、ワークシートに言葉と音符を記入する。その後、「工夫したふし」に「問いと答え」を追加していくことを伝え、ワークシートに記述する方法の説明をしてから活動を始める。これにより、説明の短縮と活動時間の確保ができるようにする。</p> <p>・「音楽の仕組み」は、「問いと答え」のうち「呼びかけ」や「掛け合い」とし、二人組で分担して表現できる工夫とする。その際、教室に掲示した「音楽の仕組み」に関する図入りのカードを活用することで、「音楽の仕組み」を取り入れた表現をイメージして進められるようにしていく。</p> <p>・ふしを組み合わせる際には、自分たちの思いや意図がイメージ通りに演奏に生かされているか確認するために、演奏したり聴き合ったりする場を設定する。</p> <p>・できあがったふしを実際に演奏して、気付いたことや気になった部分については適宜変更してよいことを伝え、児童の発想を生かし、操作して組み合わせたり、演奏して考えたりできるようにしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分のつくったふしを、「音楽の仕組み」を取り入れることにより、つくりたい曲のイメージに合わせて構成するための思いや意図をもっている。 (児童の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 できたふしを発表し、聴き合う。	10分	<p>・構成したふしを確認し合い、鍵盤ハーモニカで演奏する。演奏を聴く際には語感とリズム、音の高さ、音楽の仕組みが関わり合い、どんなイメージを伝えたいと考えてつくられているかを意識して聴き合うよう伝える。</p> <p>・できたふしを聴き合う際にはお互いのふしのよさや工夫した点を賞賛し合えるような雰囲気づくりに努める。</p>

本時の展開（6／6）

- (1) **ねらい** できあがった作品の音楽の仕組みや音楽の要素が醸し出す、よさや面白さを感じ取る。
- (2) **準備** ワークシート ピアニカ
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・前時にグループで完成させたふしを確認し、どの仕組みを使ってどのようにふしを構成したか、グループの発表の際に聴いている児童に伝えられるようにする。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>めあて 音楽の仕組みや要素の面白さを味わおう。</p> </div>		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り返すと強調されるという、反復の効果が分かって面白かったです。 ・みんなのかけ声を表したいから、問いと答えで呼びかけにみんなで答えるイメージを表現していたところがよかったです。 ・組み合わせられていて修学旅行の楽しい感じが分かりました。 ・かけ声を繰り返すと頑張っているイメージを表現するにはぴったりだと思いました。 ・自分たちのつくったものを演奏してもらってうれしかったです。 </div> <p>3 演奏を聴き合う。</p>	30分	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を聴く視点は「音楽の仕組みのよさや面白さ」「音楽の要素が醸し出す音楽のよさや面白さ」とし、発表を聴き合うことでそれを感じ取ったり伝え合ったりできる場の設定を工夫する。 ・できあがった作品を他の班でも演奏できるようにする場を設定し、自分たちの作品を客観的に聴くことができるようにする。 <p>◎自分の担当する部分の演奏が不安な児童については、グループ内で補助や援助ができるように声かけをしていく。それでもなお演奏に不安が見られる場合には教師による補助も行うこととする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇音楽の仕組みや音楽の要素を取り入れた演奏を表現したり音を音楽に構成したりしている。 (演奏の様子・演奏方法・ワークシート)【技能】</p> </div>
4 本時のまとめと題材のまとめをする。	5分	・音楽づくりの面白さや〔共通事項〕に示された内容を取り入れた音楽のよさや面白さを、今後の音楽活動にも生かせるよう、意欲付けができるようにしていく。

音楽科学習指導案（2年）

平成26年11月7日（金曜日）第2校時 2年教室 指導者

1 題材名 「じぶんたちのだいすきな おはやしをつくろう」

教材 語感を生かしたふしづくり

2 考察

(1) 題材観

本題材は、以下の学習指導要領第1学年及び第2学年の内容によるものである。

A 表現（2）

イ 楽曲の気分を感じ取り、思いや意図をもって演奏すること。

A 表現（3）

イ 音を音楽にしていくことを楽しみながら、音楽の仕組みを生かし、思いをもって簡単な音楽をつくること。

本題材では、音楽づくりの学習において、児童に身近な題材をテーマとして、児童が発想した言葉の語感を生かしたふしづくりを行う。ふしづくりを行う際に、〔共通事項〕に示された「音楽を特徴付けている要素」を生かした「常時活動」を直接的な手立てとして取り入れたり、〔共通事項〕に示された「音楽の仕組み」を生かした「常時活動」の経験をふまえて音楽を構成したりすることで、思いや意図を生かした音楽が構成できるようになることをねらいとしている。〔共通事項〕に示された内容を手がかりにし、児童が思いや意図をもって音楽を構成することの重要性は、「はばたく群馬の指導プラン」で示されており、表現に生かすための具体的な取組を行っていくことが求められている。

今回、思いや意図を生かした音楽を構成できるようにするために、「音楽を特徴付けている要素」だけでなく、「音楽の仕組み」を取り入れた「常時活動」を、音楽づくりの直接的な手立てとして取り入れた実践を行いたい。授業導入としての「常時活動」に「音楽の仕組み」を意識した活動を取り入れることで、音楽づくりの具体的な方法を無理のない形で自然に身に付けることができるようにする。そして、音楽を構成するどの部分で何を取り入れるとどんな音楽的な効果が得られるかを、題材の学習以外のところでも意識できる音楽経験を積み重ねられるようにしたいと考えた。また、つくった音楽のよさや面白さを「記録する・伝える」ための「常時活動」として、リズムカードを活用したり音符や記号を読んだり書いたりする活動を取り入れていく。これにより、音楽に構成した自分の思いや意図を、演奏としてだけでなく再現できる楽譜としての形として残すことができ、演奏し合ったり伝え合ったりすることにつながると考えた。

このように、「常時活動」を手がかりとして身に付けた〔共通事項〕に示された内容を、どの段階でどのように取り入れるか、また、構成した音楽をどのような形で記録したり伝えたりしていくかなど、音楽づくりの一連の学習過程に見通しをもって取り組めるようにする。その中で、自らの思いや意図を音楽に構成するだけでなく、構成した音楽のよさや面白さを感じ取ったり伝え合ったりすることにつながられると考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態及び指導方針（男子10名 女子12名 計22名）

<関心・意欲・態度>

本校の児童は明るく元気で、様々な活動にまじめに取り組むことができる。常時活動にも意欲的に取り組むことができ、カードによるリズムづくりや、リズムをもとにした言葉遊びにも積極的な児童が多い。読譜やリズム打ちに積極的に取り組むだけでなく、活動を楽しみながら取り組もうという姿勢が見られる。

<音楽表現の創意工夫>

常時活動で行っている即興のリズム表現や言葉遊びでは、自分たちでつくったリズムを読んだ

り手拍子したりするだけでなく、音符の順番を入れ替えてリズムをつくり直して演奏することができる。また、反復や変化など、「音楽の仕組み」を意識した常時活動を継続する中で、それらの醸し出す音楽のよさや面白さに徐々に気付くことのできる児童が増えている。しかし、楽曲の中に含まれる「音楽の仕組み」に自分たちで気付くことや、それらを生かした表現の工夫ができるようになるまでには至っていない。これは、思いや意図を生かして表現するための、〔共通事項〕に示された内容と音楽表現を結び付ける具体的な音楽経験が少ないことが理由として考えられる。

<音楽表現の技能>

常時活動のリズム表現では、自分たちで音符を読み、ほとんどの児童が正確に演奏できる。また、器楽合奏では模範演奏を意識し、楽譜通り正しく演奏できる児童が多い。運指についても、正しい指使いで演奏しようとして意識して取り組むことができる。しかし、楽曲を演奏するための譜読みでは、教師と一緒に譜読みをしてからでないと演奏できない児童が多く、個人で譜読みをして演奏に取り組むことは難しい。また、音楽づくりの活動では、簡単なリズム遊びや問いと答えによるリズム表現など、即興で演奏したりつくったりすることに大変意欲的であるが、自分でつくった音楽の中に「音楽の仕組み」を意識して取り入れることは難しく、取り入れる部分と取り入れる「音楽の仕組み」を指定しなければ、教師が意図した「音楽の仕組み」を取り入れることができない。

以上のことから、本校の実態として、「はばたく群馬の指導プラン」で挙げられた「音楽の要素を手がかりに、音楽づくりや創作をすること」にかかわる「楽しく音遊びや簡単な音楽づくりができる」の課題に相当することが分かる。

3 研究とのかかわり

群馬県総合教育センターの先行研究における、表現（音楽づくり）分野の課題として、知覚・感受したことを言葉で表すことや、作品を記録するための記譜や音符と関連した指導についての改善や工夫が必要であることが示されていた。また、「常時活動」については、児童の発達に応じ、段階をふんだ指導を行うことや、〔共通事項〕との具体的な関連付けが求められるということについても挙げられていた。このようなことから、音楽づくりでは、思いや意図と〔共通事項〕をかかわらせた表現活動を目指し、「常時活動」に具体的に取り入れた活動を生かして、自分が表現した音楽を言葉や図、記号・音符等を使って記録したり伝えたりすることができる音楽科指導の工夫を目指したいと考えた。

4 題材の目標

自分の発想した言葉の語感をもとにして、音符やリズムの組み合わせと「音楽の仕組み」を生かしたふしづくり活動ができる。

5 指導計画（全6時間予定）

（常○：資料28ページ「音楽づくりの要素と常時活動のかかわり」参照）

評価 規 準	音楽への 関心・意欲・態度	テーマから発想した言葉に合わせたリズムの組み合わせを考え、思いや意図をもってふしづくりの学習に取り組もうとしている。		
	音楽表現の 創意工夫	リズムや音の構成に、〔共通事項〕の音楽の仕組みを関連付けて工夫し、ふしづくりにおいて自分の思いや意図をもっている。		
	音楽表現の技能	語感やリズムの特徴に気付いたり、音楽の仕組みを生かしたりして、音を音楽にしている。		
時 間	過 程	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
		活用させたい 〔共通事項〕等	思考力・表現力等 (生かす常時活動やその内容)	
第1時	課	・音符やリズム、 音色	・八分音符と四分音符の特徴について考えたり、使う楽器の音色の特徴を生かしたりする	・自分の好きな楽器を選び、例示された「おはやしのリズム」を演奏する。 ◇自分の好きな楽器や音色を選び、おは

第2時	題 把 握	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、イントネーション ・音符やリズム、拍、音高、フレーズ 	<p>演奏。(常④⑤⑥)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉を想起しやすい身近なテーマにそって発想した、リズムパターンの想起。(常⑨⑩) ・語感を生かした音符の選択と、操作活動を取り入れることによるリズムの組み合わせ。また、グループでの話し合いを生かした演奏や表現活動。(常⑪⑫) 	<p>やしを演奏しようとしている。【関】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはやしにするための1小節4拍になる言葉を考え、手拍子で表現し、組み合わせる。 <p>◇リズムや音の構成に〔共通事項〕の要素を関連付けて工夫し、おはやしづくりに思いや意図をもっている。【創】</p>
第3時		<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、拍、発音 	<ul style="list-style-type: none"> ・「まつりのおはやし」にふさわしい音を使った音の選択とそれを生かした演奏や表現活動。(常④⑤⑥⑨) 	<ul style="list-style-type: none"> ・組み合わせたリズムに「ド・レ・ファ」をあてはめ、つくったふしを演奏する。 <p>◇完成した楽譜を見ながら、拍の流れに乗って楽器を演奏したり、リズム打ちをしたりすることができる。【技】</p>
第4時	課 題 追	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、拍、音高、フレーズ、問いと答え、変化、反復 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で経験した「問いと答え（呼びかけ）」を取り入れた「音楽の仕組み」による音楽の構成。(常⑤⑥⑦⑧⑨) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでつくったおはやしを演奏を音楽の仕組みを使って工夫することができる。 <p>◇自分たちのつくったふしを組み合わせた演奏が生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。【創】</p>
第5時	究	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム、拍、音高、フレーズ、問いと答え、変化、反復 	<ul style="list-style-type: none"> ・常時活動で経験した「問いと答え（対照）」を取り入れた「音楽の仕組み」による音楽の構成。(常⑤⑥⑦⑧⑨) 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちでつくったおはよしの演奏を音楽の仕組みを使って工夫することができる。 <p>◇自分たちのつくったふしに取り入れた仕組みが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。【創】</p>
第6時	ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・音符やリズム音高、問いと答え、変化、反復、強弱 	<ul style="list-style-type: none"> ・できた楽譜を演奏したり聴き合ったりする活動を取り入れることによる、よさや面白さを伝え合ったり共感し合ったりできる活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おはやしを演奏したり聴き合ったりすることで、表現のよさや面白さを感じ取ろうとしている。 <p>◇自分たちで構成したおはやしを見ながら、拍の流れに乗って楽器を演奏したりリズム打ちしたりできる。【関】</p>

本時の展開 (1 / 6)

- (1) **ねらい** 自分の好きな楽器を使って、もともになるおはやしを演奏する。
- (2) **準備** 教科書・タンバリン・すず・カスタネットなど
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本題材と本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・本題材では、おまつりで演奏されるおはやしを、自分たちで考えていくことを伝える。その際、自分たちの好きなものをおはやしにすることを伝え、意欲付けにつながるような導入の話をする。
<p>めあて がっきをつかって おはやしを えんそうしよう。</p>		
<p>3 基本のおはやしを演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽譜を読む。 ・楽器を選んで演奏する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おはやしのリズムって、いつもやってるリズム遊びと変わらないから分かりやすいね。 ・ンタ(八分休符)の入ったリズムはどうやって手拍子したらいいのかな? ・タンバリンはシャラララって鳴らすと長い音になるよ。 ・トライアングルもさわったままたたくと短い音になるね。 ・木の楽器と鉄の楽器の音が混ざるとおもしろい音になるね。 </div>	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは基本となるおはやしの部分を演奏できるようにすることを伝える。 ・楽譜を読むだけでなく CD の模範演奏を聴くことで、全体のイメージをとらえられるようにする。 ・楽譜を読む際には、リズムを読む・手拍子する、といった常時活動で体験したリズム読みの手順を生かして行えるよう声かけをする。 ◎おはやしの譜読みが難しい児童には、教師が具体的な手拍子の模範演奏をしてみせることで理解できるようにし、一緒にリズム演奏を手伝えるように机間指導を行えるようにする。 ・グループで楽器を選ぶ際には、音色や楽器の種類を「長い音・短い音」「鉄の楽器・木の楽器」などの種類に分けておくことで、同じ種類の楽器をグループで使わないように工夫できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分の好きな楽器や音色を選び、おはやしを演奏しようとしている。 (活動の様子・発表)【関・意・態】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	10分	・全体で演奏した後、グループごとに発表を行う。発表を聴く際には、それぞれの楽器の選び方による音色の違いを聞き取れるような視点を示すことで、それぞれの発表のよさや面白さに気付けるようにする。

本時の展開（2／6）

- (1) **ねらい** 自分たちのおはやしにするための 2小節4拍の言葉を考える。
 (2) **準備** ワークシート（個人）・掲示用ワークシート・拡大音符カード・児童用音符カード
 鍵盤ハーモニカ
 (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの好きなものをテーマにしたおはやしを考えるという学習課題を伝える。その際、「○○まつり」の○○の部分は、児童に身近な「動物」「果物」など内容を想起しやすいテーマとしてグループごとに設定していく。 テーマの内容が重ならないよう、児童の希望を考慮しながらグループごとに設定できるように工夫する。
<p>めあて じぶんの おはやしの ことばやリズムを 考えよう。</p>		
<p>3 自分のおはやしを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくは「くだもの」だから「いちご」にしよう。でも、マスが余っちゃうからどうしたらいいのかな。 ・いろいろな言葉を入れられるから、「あまいぞ」って入れてみたらどうかな？ ・言葉に合わせて手拍子するのは、いつもやっているリズム遊びと同じだからとっても簡単だね。 </div>	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・2小節4拍到収まる言葉を考えられるようなワークシートを準備しておくことで、おはやしの拍を超えないようなリズムが想起できるようにしていく。 ・テーマに設定されているものの名前だけで言葉を考えるだけでなく、そのもののイメージや好き・嫌い、味や色など、様々な言葉を組み合わせることにより、言葉やリズムのバリエーションが広がるようにしていく。 ・想起した言葉に合ったリズムを手拍子する際、常時活動で行ったリズム表現を具体的に取り入れて考えられるようにすることで、想起したリズムをワークシートに音符カードを使って表現できるようにしていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇リズムの構成に言葉のリズムを関連付けて工夫し、おはやしづくりに思いや意図をもっている。 (学習の様子・ワークシート・発表)【創意工夫】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・代表児童の作品を聴き、リズムや言葉の面白さを感じられるようにする。次回は個人の作品をグループでまとめて一つの作品に仕上げていくことを伝える。

本時の展開 (3 / 6)

- (1) **ねらい** 自分のおはやしに音をあてはめて、演奏することができる。
 (2) **準備** ワークシート (個人)・拡大譜
 鍵盤ハーモニカ

(3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	10分	・前時に作成した自分のおはやしに「ド・レ・ファ」の音をあてはめ、おまつりのおはやしをつくることを説明する。
<p>めあて 自分のおはやしに音をあてはめて ふしをえんそうしよう。</p>		
<p>3 おはやしの音をあてはめて演奏する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音を選ぶだけだから、難しくないけど、三つ全部の音を使うからよく考えないとね。 ・同じリズムなのに言葉が違っておもしろいね。 ・「ド」「レ」「ファ」の3音しか使っていないのに、いろいろなふしができていておもしろいね。 ・そのリズムはこうたたくんだよ。でも、なんだかおかしいと思うからちょっと変えてもいいかな？ </div>	25分	<p>・できたおはやしのリズムに音をあてはめる際、「ド」「レ」「ファ」の3音に限定することで、楽譜が複雑になりすぎることを防ぎ、児童の演奏可能な楽譜にするだけでなく、おはやしの雰囲気が感じ取れる音階を使えるようにする。</p> <p>・音をあてはめる際は即興でよいことや、演奏してみても難しかったりおかしく感じたりした場合には訂正してもよいことを伝え、を伝え、児童の発想を十分に生かせるようにする。その際、ふしが単純になることを防ぐために、同じ音を3回続けることがないように伝える。</p> <p>・できあがったおはやしを実際に通して演奏できるように、練習する場を設定する。演奏を聴き合う際には、グループ内で教え合ったり聴き合ったりできるようにし、協力し合える雰囲気づくりに努める。</p> <p>・演奏してみて直したいと感じた児童には、ワークシートの上に音符カードを重ねて張ることで訂正していくことを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇完成した楽譜を見ながら、拍の流れに乗ってつくったふしを演奏したり、リズム打ちをしたりすることができる。 (発表・演奏の様子)【技能】</p> </div>
4 本時のまとめをし、次時の活動の見通しをもつ。	5分	・代表児童の作品を聴き、リズムや言葉の面白さを感じられるようにする。次回は個人の作品をグループでまとめて一つの作品に仕上げていくことを伝える。

本時の展開 (4 / 6)

- (1) **ねらい** 自分たちのおはやしを組み合わせ、演奏を工夫できる。
 (2) **準備** ワークシート (個人)・拡大譜
 鍵盤ハーモニカ・タンバリン・カスタネット

(3)

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・教科書に例示されているおはやしの間に、自分たちでつくったおはやしを並べ、演奏の仕方を工夫することを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>めあて つくったおはやしの くみあわせ方ををかんがえよう。</p> </div>		
3 それぞれがつくったおはやしを並べ、おはやしの構成を考える。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのつくったおはやしを、「ことばのおはやし」と「音のおはやし」に分けて考えられるようにするために、ワークシートのどの部分が「ことばのおはやし」と「音のおはやし」になっているかを、拡大したワークシートを用いて説明できるようにする。 ◎ワークシートの記入方法を伝える際、どのような方法で作業を進めるか確認しやすくするために、拡大譜には教員が準備した言葉や音の例を示し、記入の仕方や組み合わせ方を示していく。 ・グループは四人(三人)とし、自分たちの作品を組み合わせるグループの作品としてまとめることを伝える。はじめに、自分のつくった作品から「ことばのおはやし」を全員分つなげて演奏するようにすることで、児童のつくった作品がグループの作品に必ず反映されるものになるようにしていく。その際、手拍子の部分を自分が選んだ楽器を用いて演奏できるよう、使う楽器を選んだり準備したりする。 ・次に、「音のおはやし」を並べて演奏する。その際、「ことばのおはやし」「音のおはやし」それぞれを演奏した感じや、演奏したときのよさや面白さを感じられるよう、演奏する際に考えることを伝えておくようにする。 ・ふしを実際に操作して組み合わせたり、演奏して考えたりできるよう、同じグループの児童と協力して活動できる場の設定を工夫する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分たちのつくったふしの組み合わせが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。(児童の様子・ワークシート)【創意工夫】</p> </div>
4 できたおはやしを発表する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでできたおはやしやリズムを確認し合い、楽器や歌・鍵盤ハーモニカで演奏する。演奏は通して演奏できればよいこととし、演奏の工夫を次時に行うことを伝える。 ・演奏やおはやしのよかったところを賞賛し、次の活動への意欲付けをする。

本時の展開（5／6）

- (1) **ねらい** 自分たちのつくったおはやしの演奏を、音楽の仕組みを使って工夫できる。
- (2) **準備** ワークシート（グループ・個人）完成したワークシート・拡大譜・譜面台
鍵盤ハーモニカ
- (3) **展開**

学習活動 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。(常時活動)	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・教科書に例示されているおはやしの間に、自分たちでつくった「ことばのおはやし」と「音のおはやし」を並べ、演奏の仕方を工夫することを伝える。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>めあて つくったおはやしの えんそうのしかたをくふうしよう。</p> </div>		
3 グループで決めたテーマに合わせて、おはやしを構成する。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでまとめたワークシートは、そのまま楽譜として使用できるような形にしていけるよう、児童が使った音符カードがそのまま貼り付けられる大きさのワークシートを準備しておく。 ◎ワークシートの記入方法を伝える際、どのような方法で作業を進めるか確認しやすくするために、拡大譜を用いて記入の仕方や組み合わせ方を示していく。 ・グループは四人（三人）とし、自分たちの作品を組み合わせるグループの作品としてまとめることを伝える。はじめに、自分のつくった作品から「ことばのおはやし」か「音のおはやし」のどちらかを必ず選んで使うようにすることで、児童のつくった作品がグループの作品に必ず反映されるものになるようにしていく。 ・次に、「ことばのおはやし」と「音のおはやし」を順に練習する。その際、「ことば葉のおはやし」「音のおはやし」共に二人組で演奏することとし、座席配置を工夫することで、二人のうちのどちらかの児童の作品をお互いに演奏し合えるようにする。 ・ふしを実際に操作して組み合わせたり、演奏して考えたりできるよう、同じグループの児童と協力して活動できる場の設定を工夫する。 ・自分たちで構成したおはやし完成したグループは、例として示されている前半と後半のおはやしも入れて演奏し、発表の練習をするように伝える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分たちのつくったふしの組み合わせが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、どのようにおはやしを構成するかについて自分の思いや意図をもっている。(児童の様子・ワークシート)【創意工夫】</p> </div>
4 できたおはやしを発表する。	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループでできたおはやしやリズムを確認し合い、鍵盤ハーモニカで演奏する。演奏は通して演奏できればよいこととし、演奏に取り入れた工夫のよさや面白さを伝え合うのは次時であることを伝える。 ・演奏やおはやしのよかったところを賞賛し、次の活動への意欲付けをする。

本時の展開（6／6）

- (1) **ねらい** できあがったおはやしの、よさや面白さを感じ取りながら聴くことができる。
- (2) **準備** ワークシート（グループ・個人）タンバリン・すず・カスタネット・譜面台
鍵盤ハーモニカ
- (3) **展開**

児童の活動（時間） 予想される児童の反応	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (◎努力を要する児童生徒への支援 ◇評価)
1 リズムづくりと既習曲の歌唱を行う。	5分	・児童の様子を見取り、授業の雰囲気づくりに努め、活動への意欲付けをしていく。
2 本時の学習課題をつかみ、追求の見通しをもつ。	5分	・自分たちのつくったおはやしのよさや面白さが伝えられるように、何処をどんな風に工夫したか伝えてから演奏するようにする。
<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて えんそうの よいところや おもしろいところを かんじよう。 </div>		
<p>3 グループの発表を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><予想される児童の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムが変わっているとことが工夫してあっておもしろかったです。 ・一人が演奏した後みんなが演奏しているので、工夫がしてあってすごいと思いました。 </div> <p>4 できた作品を他のグループと交換し、お互いに演奏し合う。</p>	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏を聴く際には言葉とリズム、音の高さがどんな関係になってつくられているか考えながら聴き合うよう伝える。 ・できたふしを聴き合う際には、自分たちが工夫した部分を紹介できるような場の設定をし、お互いのふしのよさや工夫した点を賞賛し合えるような雰囲気づくりに努める。 ・一通り発表が終わった後、グループごとに作品を交換し、演奏を聴き合う場を設定する。自分たちの作品を他のグループに演奏してもらい、客観的に聴くことで、自分たちの取り入れた音楽の仕組みにどのような効果があり、それがよさや面白さにどのようなつながっているかを感じ取りやすくしていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇自分たちで構成したおはやしを見ながら、拍の流れに乗って楽器を演奏したりリズム打ちしたりしようとしている。 (児童の様子・ワークシート)【関・意・態】</p> </div>
5 本時のまとめと題材のまとめをする。	5分	・自分たちの演奏や友達の発表、自分たちの作品を演奏してもらった活動を振り返り、音楽づくりの面白さを再確認し、今後の音楽活動への意欲付けを行えるようにしていく。